



あとがき



ひさしぶりに対面形式で開催された原子力学会秋の大会に参加したが、オンラインで参加するより集中して話を聞くことができた気がする。NEAやIAEAの会合もハイブリッドで開催されるようになり、画面を通して現地の様子をみる限りでは、コロナ禍前の活動に徐々に戻ってきていると感じる。新型コロナの広がり収まったとは言いがたいが、これからは共存の方向に向かっていくことになるのであろう。

今年アメリカで開催予定であった核データ国際会議ND2022は、本文の記事にある通りバーチャル技術も活用して完全なオンラインでの開催となった。次回のND2025はスペインでの開催予定であるが、今の状況から考えると現地開催となる公算が大きい。更にその次を考えると、順番ではアジアでの開催となる。2000年以降アジアでは2001年日本（つくば）、2010年韓国、2019年中国で開催されており、NEA/WPECでの核データのアクティビティを考えると次のND2028は日本で開催されると考えるのが自然である。最初に触れた原子力学会秋の大会でも核データ部会全体会議があり、本件に関して議論がなされた。具体的な内容はこれから検討していく必要があるが、ND2028の日本での開催について前向きな合意がなされた。個人的な話になるが、2001年はND2001の主催である原研の核データセンターに在籍しており、開催するために下働きとして色々と手伝った記憶がある。ND2028も開催するとなると色々と多くの準備が必要となるが、日本の核データ関係者が協力して実施できればと考えている。微力ながら筆者もできるかぎり協力させていただく所存である。

岩本 修 2022 年 9 月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

合川 正幸（北大）

岩本 修（原子力機構）

大塚 直彦（委員長、IAEA）

金 政浩（九大）

小浦 寛之（原子力機構）

中村 詔司（原子力機構）

丸山 修平（原子力機構）

山野 直樹（RADONet）